

令和5年度(2023年度)授業計画				目 標	物体の運動と様々なエネルギーに主体的に関わり、理科の味方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、物体の運動と様々なエネルギーを科学的に探究するために必要な資質・能力を育成することを目指す。	教科書	数研出版 物理基礎
講座名	物理基礎	科目名	物理基礎			副教材	2023 新課程版 セミナー物理基礎
単位数	2単位	区 分	必修修				
年 次	1年次	形 態	クラス単位				
担当者名	1組 加藤木、2組 霜山、3組 佐藤、4組 加藤木、5組 佐藤、6組 佐藤、7組 加藤木、8組 霜山						

授業内容	第1学期		第2学期		第3学期
	<第1定期考査>	<第2定期考査>	<第3定期考査>	<第4定期考査>	<第5定期考査>
物体の運動 落下運動 力のつり合い		運動の法則 力学的エネルギー	力学的エネルギー 熱とエネルギー 物質と電気抵抗	波の性質	波の性質 音と振動 物理学と社会
定期考査 までの 授業時数	10時間	14時間	14時間	14時間	18時間

評価	観点	方法	基準		
			A	B	C
知識・技能 思考・判断・表現 主体的に学習に取り組む態度	基本概念や原理・法則の正しい理解。推論、実験、検証の過程で科学的な考え方・方法の利用。観察・実験での基本的な技能の習得	定期考査、小テスト 提出物 授業での発問に対する答え 生徒の自己評価及び生徒相互評価	授業で得た知識を十分理解しており、観察、実習の手技を十分に身に付けている。	授業で得た知識をほぼ理解しており、観察、実習の手技をほぼ身に付けている。	授業で得た知識の理解が不十分で、観察、実習の手技を十分に身に付けられていない。
	科学的・論理的な思考、判断ができたか。課題の設定理由、研究過程、結果、そこから導き出した自らの考えを的確・簡潔に表現できたか。	定期考査での論述問題 授業中の発問や発表 実験レポート	観察・実験で得られたデータから十分な考察、正しい判断をすることができ、自分の考えを適切に相手に伝えることができる。	観察・実験で得られたデータから考察、判断をすることができ、自分の考えを相手に伝えることができる。	観察・実験で得られたデータから十分な考察、判断をする力が不十分で、自分の考えを相手に伝えることに努力を要する。
	物理的な事物・現象に対する主体的に関わり、理解しようとしているか。観察や実験に主体的に取り組んでいるか。	授業での学習態度 実験やグループ活動での参加する態度 提出物	物理的な事物・現象に深い関心を持ち、主体的・意欲的にそれらを研究するとともに、自ら知識等を得ようとする意識できている。	物理的な事物・現象に関心を持ち、研究するとともに、知識等を得ようとする意識できている。	物理的な事物・現象への関心が弱く、意欲的に研究に取り組めない。また、自ら知識等を得ようとする意識が不十分である。

日常の学習方法	①授業中 授業には遅刻、欠席をしない。授業の内容については、ノートをこまめにとり、その場できちんと理解していく集中力が必要である。授業中は、常に、考える姿勢を要求する。 ②家庭学習 与えた問題集をやりきり、とにかく自分の言葉で書く。自分専用のノートを作成すること。
---------	---

大学受験や発展的な内容との関連	用語や現象などの基本的内容を理解し、それらを用いて科学的物事の見方、考え方を習得し、入試に対応できる学力を身につける。また、物理学は自然科学の基礎であり他の分野を学ぶ際にも必要である。
-----------------	--

令和5年度(2023年度)授業計画				目 標	自分の身のまわりにある「なぜ?」「どうして?」と思うことを科学の方法で探求する態度を身に付ける。 生物に関する観察・実験などの体験を通じて、ヒトも自然の中に生きていることを自覚できるようになる。 「代謝」「遺伝」「体内環境」といったキーワードをもとに自分で考察と説明する力を身に付ける。 身のまわりの様々な出来事の中で、状況を分析し、考え、行動する力を付ける。	教科書	新編 生物基礎 (東京書籍)	
講座名	生物基礎	科目名	生物基礎			副教材	サイエンスビュー生物総合資料 (実教出版) ニューグローバル生物基礎 (東京書籍)	
単位数	2単位	区 分	必修					
年 次	1年次	形 態	クラス単位					
担当者名	1組 橋本	2組 橋本	3組 橋本	4組 橋本	5組 橋本	6組 橋本	7組 橋本	8組 橋本

授業内容	第1学期		第2学期		第3学期
	<第1定期考査>	<第2定期考査>	<第3定期考査>	<第4定期考査>	<第5定期考査>
多様な生物の共通点 生物の共通性としての細胞 代謝と酵素 エネルギー代謝 ミトコンドリアと葉緑体の起源	生体内におけるエネルギー変換 正確に伝わる遺伝情報 DNAの構造 ゲノムと遺伝情報 細胞分裂とDNAの複製 細胞周期とDNAの複製	遺伝情報の流れ 転写 翻訳 遺伝子の発現と生命現象 体内環境の特徴 心臓と血液循環 体内環境を調節する器官	自律神経系による調節 内分泌系による調節 自律神経系とホルモンによる協同作業 免疫 自然免疫と適応免疫 免疫とヒト	植生と生態系 植生の遷移 地球上の植生分布 陸上のバイオーム	
定期考査 までの 授業時数	10時間	14時間	14時間	14時間	18時間

評価	観点	方法	基準		
			A	B	C
知識・技能 思考・判断・表現 主体的に学習に取り組む態度	観察・実験などを通して生命現象についての基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身につけているか。	授業や実習を通して学んだ知識や技能を定期考査または授業中の小テストで評価する。	授業で得た知識を十分理解しており、観察、実習の手技を十分に身に付けている。	授業で得た知識をほぼ理解しており、観察、実習の手技をほぼ身に付けている。	授業で得た知識の理解が不十分で、観察、実習の手技を十分に身に付けられていない。
	観察・実験などを通して、生命現象に問題を見だし、実証的・論理的に考えたり、分析的・総合的に考察したりすると共に、事実に基づいて科学的に判断できるか。	観察・実験等を行い、レポートを書く。実習での予想や考察、器具の操作、報告書などから評価する。授業内容を適切にまとめているか、科学的な思考ができていかなどを評価する。	観察・実験で得られたデータから十分な考察、正しい判断をすることができ、自分の考えを適切に相手に伝えることができる。	観察・実験で得られたデータから考察、判断をすることができ、自分の考えを相手に伝えることができる。	観察・実験で得られたデータから十分な考察、判断をすることができ、自分の考えを相手に伝えることに努力を要する。
	生命現象に関心を持ち、意欲的にそれらを研究すると共に、更なる知識等を得ようとする意欲、態度があるか。	授業や実習に対する姿勢、学習態度、生物への関心等で判断する。	生命現象に深い関心を持ち、主体的・意欲的にそれらを研究するとともに、自ら知識等を得ようとする意識ができています。	生命現象に関心を持ち、研究するとともに、知識等を得ようとする意識ができています。	生命現象への関心が弱く、意欲的に研究に取り組めない。また、自ら知識等を得ようとする意識が不十分である。

日常の学習方法	<p>①授業中</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・しっかり自身の考えを持って生物学に臨む。</li> <li>・身の回りの現象や自分自身の体について、自分の言葉で説明できるようにする。</li> <li>・常に疑問を絞り出し、授業中は頭をフル回転させること。</li> </ul> <p>②家庭学習</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業のあったその日に復習する(振り返りを入力・送信する。)</li> <li>・登場した生物用語の定義を資料集や教科書で調べ、補足知識をメモする。</li> <li>・問題演習に取り組む。</li> </ul>
---------	--

大学受験や発展的な内容との関連	用語や現象などの基本的内容を理解し、それらを用いて科学的物事の見方、考え方を習得し、入試に対応できる学力を身につける。
-----------------	---

令和5年度(2023年度)年間授業計画				目 標	化学的な現象について関心を持ち、物質の性質や変化に対する探究心を高める。 化学的に探究するための能力や技術として実験や観察力を身に付けさせる。 基本的な概念や原理・法則を理解させ、化学的な自然観を育成する。	教科書	i版 化学基礎(啓林館)	
講座名	化学基礎	科目名	化学基礎			副教材	セミナー化学基礎+化学(第一学習社)	
単位数	3単位	区 分	必修					
年 次	2年次	形 態	クラス単位					
担当者名	1組 小池	2組 小池	3組 小池	4組 小池	5組 原田	6組 原田	7組 原田	8組 原田

授業内容	第1学期	第2学期	第3学期		
	<第1定期考査>	<第2定期考査>	<第3定期考査>	<第4定期考査>	<第5定期考査>
化学と物質 1、純物質と混合物 2、物質とその成分 3、物質の三態と熱運動  物質の構成粒子 1、原子の構造 2、イオン 3、元素の周期律  化学結合 1、イオン結合とイオン結晶 2、分子と共有結合 3、分子の極性と電気陰性度 4、共有結合でできた物質 5、金属結合と金属	物質と化学反応式 1、原子量・分子量・式量 2、物質量 3、化学反応式と物質量  酸と塩基の反応 1、酸と塩基とは	酸と塩基の反応 2、水の電離とpH 3、中和反応 4、塩	酸化還元反応 1、酸化と還元 2、酸化・還元と酸化数 3、酸化剤・還元剤 4、金属のイオン化傾向 5、酸化還元反応と日常生活(電池を含む) 6、電気分解と金属の精錬  周期表の活用(無機物質) 非金属元素 1、周期表の活用 2、水素・貴ガス元素 3、ハロゲン元素	周期表の活用(無機物質) 非金属元素 4、酸素・硫黄 5、窒素・リン 6、炭素・ケイ素  周期表の活用(無機物質) 典型金属 1、アルカリ金属元素 2、2族元素 3、アルミニウム・亜鉛・スズ・鉛	
定期考査までの授業時数	18時間	21時間	18時間	21時間	27時間

評価	観点	方法	基準			
			A	B	C	
評価	知識・技能	基本概念や原理・法則の正しい理解。推論、実験、検証の過程で科学的な考え方・方法の利用。観察・実験での基本的な技能の習得	定期考査、小テスト 提出物 授業での発問に対する答え 生徒の自己評価及び生徒相互評価	授業で得た知識を十分理解しており、観察、実験の手法を十分に身に付けている。	授業で得た知識をほぼ理解しており、観察、実験の手法をほぼ身に付けている。	授業で得た知識の理解が不十分で、観察、実験の手法を十分に身に付けられていない。
	思考・判断・表現	科学的・論理的な思考、判断ができたか。課題の設定理由、研究過程、結果、そこから導き出した自らの考えを的確・簡潔に表現できたか。	定期考査での記述問題 授業中の発問や発表 実験レポート	観察・実験で得られたデータから十分な考察、正しい判断をすることができ、自分の考えを適切に相手に伝えることができる。	観察・実験で得られたデータから考察、判断をすることができ、自分の考えを相手に伝えることができる。	観察・実験で得られたデータから十分な考察、判断をする力が不十分で、自分の考えを相手に伝えることに努力を要する。
	主体的に学習に取り組む態度	化学的な事物・現象に対する主体的に関わり、理解しようとしているか。観察や実験に主体的に取り組んでいるか。	授業での学習態度 実験やグループ活動での参加する態度 提出物	化学的な事物・現象に深い関心を持ち、主体的・意欲的にそれらを研究するとともに、自ら知識等を得ようと意識できている。	化学的な事物・現象に関心を持ち、研究するとともに、知識等を得ようと意識できている。	化学的な事物・現象への関心が弱く、意欲的に研究に取り組めない。また、自ら知識等を得ようとする意識が不十分である。

<b>①授業中</b> 授業には遅刻、欠席をしない。授業の内容については、ノートをこまめにとり、その場できちんと理解していく集中力が必要である。授業中は、常に、考える姿勢を要求する。 <b>②家庭学習</b> 与えた問題集をやりきり、とにかく自分の言葉で書く。自分専用のノートを作成すること。
---

<b>大学受験や発展的な内容との関連</b>	用語や現象などの基本的内容を理解し、それらを用いて科学的物事の見方、考え方を習得し、入試に対応できる学力を身につける。また、化学は自然科学の基礎であり他の分野を学ぶ際にも必要である。
------------------------	---

令和5年度(2023年度)授業計画				目 標	2次元の物体の運動や剛体のつり合い、波動、運動量について、物理学的に探究する態度を育て、基本的な概念や原理・法則を理解させる。	教科書	数研出版 物理
講座名	研究物理	科目名	研究物理			副教材	2023 新課程版 セミナー物理
単位数	2単位	区 分	選択学校必修				
年 次	2年次	形 態	選択				
担当者名	1組 佐藤、2組 佐藤、37組 佐藤、56組 佐藤						

授業内容	第1学期		第2学期		第3学期
	<第1定期考査>	<第2定期考査>	<第3定期考査>	<第4定期考査>	<第5定期考査>
物質の状態変化と気体の内部エネルギー 大気圧、圧力と浮力 空気中の運動	二次元の物体の運動、 速度の合成、相対速度、放物運動 剛体のつり合い	音速、音の3要素 ドップラー効果 ホイヘンスの原理 波の回折 2波源の干渉	波の反射・屈折 屈折率 光波の干渉 幾何光学	運動量と力積 運動量保存の法則 跳ね返り係数	
定期考査までの授業時数	10時間	14時間	14時間	14時間	18時間

	観点	方法	基準			
			A	B	C	
評価	知識・技能	基本概念や原理・法則の正しい理解。推論、実験、検証の過程で科学的な考え方・方法の利用。観察・実験での基本的な技能の習得	定期考査、小テスト 提出物 授業での発問に対する答え 生徒の自己評価及び生徒相互評価	授業で得た知識を十分理解しており、観察、実習の手技を十分に身に付けている。	授業で得た知識をほぼ理解しており、観察、実習の手技をほぼ身に付けている。	授業で得た知識の理解が不十分で、観察、実習の手技を十分に身に付けられていない。
	思考・判断・表現	科学的・論理的な思考、判断ができたか。課題の設定理由、研究過程、結果、そこから導き出した自らの考えを的確・簡潔に表現できたか。	定期考査での論述問題 授業中の発問や発表 実験レポート	観察・実験で得られたデータから十分な考察、正しい判断をすることができ、自分の考えを適切に相手に伝えることができる。	観察・実験で得られたデータから考察、判断をすることができ、自分の考えを相手に伝えることができる。	観察・実験で得られたデータから十分な考察、判断をすることができ、自分の考えを相手に伝えることに努力を要する。
	主体的に学習に取り組む態度	物理的な事物・現象に対する主体的に関わり、理解しようとしているか。観察や実験に主体的に取り組んでいるか。	授業での学習態度 実験やグループ活動での参加する態度 提出物	物理的な事物・現象に深い関心を持ち、主体的・意欲的にそれらを研究するとともに、自ら知識等を得ようと意識できている。	物理的な事物・現象に関心を持ち、研究するとともに、知識等を得ようと意識できている。	物理的な事物・現象への関心が弱く、意欲的に研究に取り組めない。また、自ら知識等を得ようとする意識が不十分である。

日常の学習方法	①授業中 チャイムと同時に授業を開始する。授業の内容については、実験観察や説明を通して、その場で理解していく集中力が必要である。授業中は、板書以外の説明もこまめにメモをとり、常に考える姿勢を要求する。 ②家庭学習 必ずその日の授業の復習を行う。与えられた問題集は自ら計画的にやり、自分専用のノートを作成してポイントをまとめておくとよい。
---------	---

大学受験や発展的な内容との関連	基本的な物理現象のメカニズムを正確に理解し、それらを用いて科学的な物事の見方、考え方を習得し、大学入学後も活かすことが可能で、入試にも対応できる学力を身につける。
-----------------	---

令和5年度(2023年度)年間授業計画				目 標	生命現象についての観察、実験を行い、生物学的に探究する能力と態度を身に付ける。基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を習得する。大学入試に対応した、問題探究・解決の能力を身に付ける。1学年で学習した生物基礎の内容をさらに深く理解し、また新聞記事を読んでその内容の要約や考えたこと、自主的に学んだことをレポートとして提出し、将来に役立つ教養としての生物学を習得する。	教科書	生物(東京書籍)
講座名	研究生物	科目名	理科			副教材	サイエンスビュー生物総合資料(実教出版)セミナー生物(第一学習社)
単位数	2単位	区 分	選択学校必修				
年 次	2年次	形 態	選択				
担当者名	市石 上河原						

授業内容	第1学期		第2学期		第3学期	
	<第1定期考査>	<第2定期考査>	<第3定期考査>	<第4定期考査>	<第5定期考査>	
生物の起源と生物の進化 遺伝的変異 性生殖	有	進化のしくみ 子進化 分化 の系統と進化 の系統と進化	分 種 生物 人類	DNAの構造と複製 遺伝情報の発現 遺伝子の発現調節 イオテクノロジー	動物の発生の仕組み 動物の刺激の受容と反応 動物の行動 物の環境応答	個体群の成長 種間関係 生態系における物質収支 窒素代謝と窒素循環
定期考査 までの 授業時数	10時間		10時間	12時間	12時間	16時間

評価	観点		方法	基準		
	知識・技能	思考・判断・表現		A	B	C
評価	知識・技能	観察・実験などを通して生命現象についての基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身につけているか。	授業や実習を通して学んだ知識や技能を定期考査または授業中の小テストで評価する。	授業や実習に対する姿勢、学習態度、生物への関心等で判断する。	授業で得た知識をほぼ理解しており、観察、実習の手技をほぼ身に付けている。	授業で得た知識の理解が不十分で、観察、実習の手技を十分に身に付けられていない。
	思考・判断・表現	観察・実験などを通して、生命現象に問題を見だし、実証的・論理的に考えたり、分析的・総合的に考察したりすると共に、事実に基づいて科学的に判断できるか。	観察・実験等を行い、レポートを書く。実習での予想や考察、器具の操作、報告書などから評価する。授業内容を適切にまとめているか、科学的な思考ができていかなどを評価する。	観察・実験で得られたデータから十分な考察、正しい判断をすることができ、また自分の考えを適切に相手に伝えることができる。	観察・実験で得られたデータから考察、判断をすることができ、自分の考えを相手に伝えることができる。	観察・実験で得られたデータから十分な考察、判断をする力が不十分で、自分の考えを相手に伝えることに努力を要する。
	主体的に学習に取り組む態度	生命現象に関心を持ち、意欲的にそれらを研究すると共に、更なる知識等を得ようとする意欲、態度があるか。	授業や実習に対する姿勢、学習態度、生物への関心等で判断する。また、生物関連の新聞記事を配布し、それらの要約や自分の考えをまとめる。	生命現象に深い関心を持ち、年間を通して生物関連の新聞記事などから主体的・意欲的にそれらを研究するとともに、自ら知識等を得ようとする意識できている。	生命現象に関心を持ち、研究するとともに、知識等を得ようとする意識できている。	生命現象への関心が弱く、意欲的に研究に取り組めない。また、自ら知識等を得ようとする意識が不十分である。

日常の学習方法	①授業中 ・しっかり自身の考えを持って生物学に挑む。 ・身の回りの現象や自分自身の体について、自分の言葉で説明できるようにする。 ・常に疑問を絞り出して意見を表明し、授業中は頭をフル回転させること。
	②家庭学習 ・授業のあったその日に復習する(振り返りを入力・送信する。) ・登場した生物用語の定義を資料集や教科書で調べ、補足知識をメモする。 ・問題演習に取り組む。 ・配付された新聞記事を読み、要約するとともに自分の考えやさらに疑問点を出してそれらを自ら調べて提出する。

大学受験や発展的な内容との関連	用語や現象などの基本的内容を理解し、それらを用いて科学的物事の見方、考え方を習得し、入試に対応できる学力を身につける。
-----------------	---

令和5年度(2023年度)授業計画				目 標	物理的な事象・現象についての観察、実験や課題研究などを行い、自然に対する 関心や探究心を高め、物理学的に探究する能力と態度を育てるとともに 基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を育成する。	教科書	改訂版 物理 (数研出版)
講座名	物理	科目名	物理			副教材	セミナー-物理基礎+物理(第一学習社) 物理重要問題集(数研出版) 大学入学共通テスト対策 チェック&演習 物理(数研出版)
単位数	4単位	区 分	自由選択				
年 次	3年次	形 態	少人数				
担当者名	霜山						

学校行事	第1学期	<第1定期考査>	<第2定期考査>	第2学期	木もれ陽祭	<第3定期考査>	<第4定期考査>	第3学期	<第5定期考査>
授業内容	円運動	気体の状態変化	電場	夏季休業期間	電流と磁場	原子の構造	原子核と素粒子	冬季休業期間	総合演習
	慣性力			前期	電磁誘導			前期	個別指導
単振動	第2定期考査			分野別重要問題	交流と電磁波			第4定期考査	総合問題(応用)
万有引力	第1定期考査			後期	電子と光			第3定期考査	後期
		総合問題(基礎)							
定期考査までの授業数	16 時間		16 時間		16 時間		16 時間		4 時間

実力テスト 実技テスト 課題テスト				



評価の観点 評価方法	物理的な事象・現象についての観察・実験・課題研究などを通し、物理学的に探究する能力と態度・科学的な自然観が育成されたか、また、基本的な概念や原理・法則が理解できたかを評価の観点とする。 定期考査、実験レポート、小テスト、課題の取り組み方で総合的に評価する。
---------------	---

日常の 学習方法	①授業中 授業には遅刻、欠席をしない。授業の内容については、ノートをかまめにとり、その場できちんと理解していく集中力が必要である。授業中は、常に、考える姿勢を要求する。 ②家庭学習 与えた問題集をやりきり、とにかく自分の言葉で書く。自分専用のノートを作成すること。
-------------	---

大学受験や 発展的な内容との 関連	自然科学の基礎が物理学である。特に「物理Ⅱ」の力学・電磁気学の内容は、大学進学後の基礎教養科目の中に位置づけられており、高校で学習しておかないと、大学で理系科目の講義が理解できない。
-------------------------	---

令和5年度(2023年度)授業計画				目 標	2、3年で学習した物理基礎・研究物理・物理の総まとめを行い、その内容の完全な理解を図る。 演習により確実な基礎知識を獲得し、応用力を育てる。 共通テストでの高得点を狙うと共に、国立大学の個別入試験に対応できる学力を身につける。	教科書	数研出版 改訂版 物理
講座名	理系物理演習	科目名	理系物理演習			副教材	セミナー物理基礎+物理(第一学習社) 重要問題集物理基礎・物理(数研出版)
単位数	2単位	区 分	自由選択				
年 次	3年次	形 態	少人数				
担当者名	1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8組 佐藤						

学校行事	第1学期 遠足 <第1定期考査>	<第2定期考査>	第2学期 木もれ陽祭 <第3定期考査>	<第4定期考査>	第3学期 <第5定期考査>		
授業内容	等加速度運動	波の性質	夏季休業期間	温度と熱量	直流回路	冬季休業期間	総合問題
	力と運動	音波		気体分子の運動と状態変化	電流と磁場		個別指導
	運動量保存の法則	光波		静電気力と電場	電磁誘導		
		円運動・万有引力		コンデンサー	交流回路		
		単振動・単振り子					
定期考査までの授業数	10 時間	14 時間		14 時間	14 時間		8 時間

実カテスト 実技テスト 課題テスト				



評価の観点 評価方法	
---------------	--

日常の 学習方法	センター試験・共通テスト、国立2次私大の個別入試験問題の過去問を演習する。
-------------	---------------------------------------

大学受験や 発展的な内容との関連	理学部、工学部、医歯薬系進学希望者が、共通テストおよび2次試験に対応できる実力を養成するための講座である。
---------------------	---

令和5年度(2023年度)年間授業計画				目 標	2年次で学習した「物理基礎」の問題演習を中心とした授業を行う。 重要事項の整理と解説、必要に応じて実験も導入する。 「物理基礎」の内容理解を深め、センター試験に対応するに十分な実力を養成する。	教科書	物理基礎(数研出版)
講座名	物理基礎(3年)	科目名	物理基礎			副教材	大学入学共通テスト対策 チェック&演習 物理基礎(数研出版) パックV物理基礎(駿台文庫)
単位数	2単位	区 分	自由選択				
年 次	3年次	形 態	少人数				
担当者名	1～8組 加藤木						

学校行事	第1学期	遠足	<第1定期考査>	<第2定期考査>	第2学期	木もれ陽祭	<第3定期考査>	<第4定期考査>	第3学期	<第5定期考査>
授業内容	運動の表し方			熱とエネルギー	夏季休業期間		エネルギーとその利用	実践演習	冬季休業期間	総合演習
	いろいろな力と力のつりあい			波の性質			実践演習	第4定期考査		個別指導
	運動の法則			音			第3定期考査			
	液体や気体から受ける力			物質と電気抵抗						
	仕事と力学的エネルギー			交流と電磁波						
	第1定期考査			第2定期考査						
定期考査までの授業数	10 時間			10 時間		10 時間		8 時間		4 時間

実力テスト 実技テスト 課題テスト				



評価の観点 評価方法	物理的な事物・現象についての観察・実験などを通し、物理学的に探求する能力と態度・科学的な自然観が育成されたか、また、基本的な概念や原理・法則が理解できたかを評価の観点とする。 定期考査、実験レポート、小テスト、課題の取り組み方で総合的に評価する。
---------------	--

日常の 学習方法	①授業中 授業には遅刻、欠席をしない。予め範囲の基本事項を復習しておくこと。授業の内容については、ノートをこまめにとり、その場できちんと理解していく集中力が必要である。授業中は、常に、考える姿勢を要求する。 ②家庭学習 与えた問題集をやりきり、とにかく自分の言葉で書く。自分専用のノートを作成すること。
-------------	--

大学受験や 発展的な内容との関連	大学入学共通テストで、「物理基礎」の得点9割以上を目標に問題演習を行う。「物理」は覚える事項は少なく、理解すれば高得点が狙える科目である。また、直接受験科目になくても、看護・医療系に進学する生徒は、自然科学の基礎科目として物理の内容はしっかり抑えておきたい。問題演習に取り組むことで物理への理解が深まる。
---------------------	--



令和5年度(2023年度)授業計画				目 標	化学的な事象・現象について、観察や実験などを通して自然に対する興味・関心を高める。 化学的に探究する能力と態度を育てる。 基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を育成する。 1, 2年で学習した化学基礎および化学の内容を復習し、定着を図る。	教科書	改訂 化学 (東京書籍)
講座名	化学	科目名	化学			副教材	セミナー化学基礎+化学 (第一学習社) 2023 化学重要問題集(数研出版)
単位数	4単位	区 分	自由選択				ZUZ3ナエツク&演習化学(数研出版) 2023/バックV化学(駿台文庫) 2022実力養成直前演習 化学(ランゼ)
年 次	3年次	形 態	選択				
担当者名	①・②・④筒井 ③小池						

学校行事	第1学期	<第1定期考査>	<第2定期考査>	第2学期	木もれ陽祭	<第3定期考査>	<第4定期考査>	第3学期	<第5定期考査>
授業内容	物質の状態	固体の構造 化学反応と熱・光 化学化学反応の速さ 化学平衡	夏季休業期間	化学平衡	共通テスト対策演習	二次対策演習	冬季休業期間	二次対策演習	二次対策演習
	気体の性質			水溶液中の化学平衡				個別指導	
溶液の性質	天然高分子化合物 合成高分子化合物								
定期考査までの授業数	36 時間	48 時間		40 時間	48 時間			4 時間	

実力テスト 実技テスト 課題テスト				



評価の観点 評価方法	定期考査は、化学基礎の分野からも出題する。 定期考査を中心に、実験レポート、宿題などの提出状況、小テストの成績、出席状況などを総合して評価する。
---------------	---

日常の 学習方法	①授業：実験は、前もって必ず実験プリントを読んでおき、一つ一つの操作が何のために行われるのか理解しておくこと。また、講義は、その時間内に理解できるように集中して臨むこと。 ②講習：夏季休業中には希望者を対象に夏季講習を予定しており、問題解法等を演習により補充する。 ③家庭学習：授業内容の問題演習を計画的に行うこと。
-------------	--

大学受験や 発展的な内容との関連	理学部・工学部・農学部・薬学部・医学部等への理系進学希望者は、受験科目になくとも進学上必要な科目であることを忘れてはならない。物質の変化の内側に潜む仕組みに目を向ける姿勢を持つことが必要である。理系進学希望者で、二次試験に対応できる実力を養成するための講座である。
---------------------	--

令和5年度(2023年度)授業計画				目 標	基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を育成する。 演習により応用力を身につけ、化学的に探究する能力と態度を育てる。	教科書	改訂 化学 (東京書籍)
講座名	理系化学演習	科目名	理系化学演習			副教材	セミナー化学基礎+化学 (第一学習社) 2023化学重要問題集(数研出版)
単位数	2単位	区 分	自由選択				
年 次	3年次	形 態	選択				
担当者名	筒井						

学校行事	第1学期	遠足 <第1定期考査>	<第2定期考査>	第2学期	木もれ陽祭 <第3定期考査>	<第4定期考査>	第3学期	<第5定期考査>
授業内容	原子の構造・物質質量	非金属元素	夏季休業期間	化学反応とエネルギー	金属元素	冬季休業期間	総合演習②	
	酸と塩基の性質	脂肪族化合物		化学結合と結晶	天然高分子化合物		個別指導	
	酸化還元	芳香族化合物		物質の三態	合成高分子化合物			
	電池 電気分解	有機化合物の構造と性質・反応		気体の法則	総合演習①			
				溶液	無機物質の性質・反応			
				反応の速さと化学平衡				
定期考査までの授業数	18	時間	24	時間	20	時間	24	時間

実カテスト 実技テスト 課題テスト				



評価の観点 評価方法	定期考査を中心に、小テスト、宿題などの提出物、出席の状況を総合的に評価する。 定期考査は、化学基礎の分野からも出題する。
---------------	---

日常の 学習方法	①授業：時間内に理解できるように集中して臨むこと。 ②家庭学習：授業内容の問題演習を計画的に行うこと。 ③講習：夏季休業中には希望者を対象に夏季講習を予定しており、演習により応用力を育てる。
-------------	---

大学受験や 発展的な内容との関連	理系進学希望者で、二次試験に対応できる応用力を養成するための講座である。
---------------------	--------------------------------------

令和5年度(2023年度) 授業計画				目 標	1年で学習した化学基礎の学習内容をまとめ、理解を深める。 演習により学習内容の定着を図り、応用力を育てる。	教科書	改訂化学基礎(東京書籍)
講座名	化学基礎	科目名	化学基礎			副教材	2023 チェック&演習 化学基礎(数研出版) 2023 パックV化学(駿台文庫) 2023 直前演習 化学基礎(ラーンズ)
単位数	2単位	区 分	自由選択				
年 次	3年次	形 態	選択				
担当者名	原田						

学校行事	第1学期	遠足 <第1定期考査>	<第2定期考査>	第2学期	木もれ陽祭 <第3定期考査>	<第4定期考査>	第3学期	<第5定期考査>
授業内容	物質の構成	物質質量と化学反応式		夏季休業期間	中和反応	共通テスト対策演習①~⑩(ラーンズ)	冬季休業期間	共通テスト対策演習⑤(パックV)
	物質の構成粒子	物質質量と化学反応式			酸化還元反応	共通テスト対策演習①~④(パックV)		まとめと演習
	粒子の結合	酸と塩基の反応			電池と電気分解			個別指導
定期考査までの授業数	8 時間		8 時間		8 時間	8 時間		2 時間

実カテスト 実技テスト 課題テスト				



評価の観点 評価方法	定期考査を中心に、宿題などの提出状況、小テストの成績、出席状況などを総合して評価する。
---------------	---

日常の 学習方法	苦手分野の復習を行い、問題集を活用して演習し、応用力をつける。 ①宿題と小テスト：授業で出される宿題を必ずやっておくこと。宿題の内容にもとづく、小テストを毎回行う。 ②家庭学習：問題集は、チェック&演習 化学基礎を授業の進行に合わせて演習すること。基礎固めが必要であれば、リードC(基本例題・基本問題)を授業の進行に合わせて計画的に演習すること。
-------------	---

大学受験や 発展的な内容との関連	本講座は化学基礎の内容を完全に理解し、演習により共通テストでの高得点を目指す。
---------------------	---

令和5年度(2023年度)年間授業計画				目 標	生命現象についての観察、実験を行い、生物学的に探究する能力と態度を身に付ける。 基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を習得する。 大学入試に対応した、問題探究・解決の能力を身に付ける。	教科書	生物(東京書籍)
講座名	生物	科目名	生物			副教材	サイエンスビュー-生物総合資料(実教出版)
単位数	4単位	区 分	自由選択				ニューグローバル生物
年 次	3年次	形 態	少人数				駿台バックV(予定)
担当者名	竹下裕也						

学校行事	第1学期 遠足 <第1定期考査>	<第2定期考査>	第2学期 木もれ陽祭 <第3定期考査>	<第4定期考査>	第3学期 <第5定期考査>	
授業内容	オリエンテーション 動物の刺激の受容と反応 植物の環境応答	植物の環境応答 生態と環境(個体群と生物群集)	夏季休業期間	生物の系統 生物の進化の仕組み	「生物」「生物基礎」分野に関する総合演習 センター生物演習	冬季休業期間 センター生物演習
	定期考査までの授業数	18/16 時間	20/18 時間	26/23 時間	20/16 時間	12/9 時間

実力テスト 実技テスト 課題テスト				



評価の観点 評価方法	年4回の定期テストを行い、講義や問題演習などを通して、生物学的な思考力、判断力、科学的なものの方や考え方が更に深まったかどうか評価する。 定期考査、小テスト、レポート等の提出物、授業態度等により評価する。
---------------	---

日常の 学習方法	①予習 必須ではないが、事前に教科書に目を通しておくことが望ましい。 ②授業中 授業中に説明された内容をただプリントに記入するだけでなく、自ら考え、判断し、たくさんメモをとっていくこと。授業中にきちんと理解していく努力が必要である。 ③家庭学習 授業のあったその日に復習することを勧める。まずは教科書とプリントを見直し、関連の問題もできるとなおい。 ④その他 観察・実験時には積極的に参加し、協力して作業する姿勢ももちあわせたい。
-------------	--

大学受験や 発展的な内容との関連	大学入試に対応した、問題演習を適宜行い、応用力を高めて行く。
---------------------	--------------------------------

令和5年度(2023年度)授業計画				目 標	・問題演習を通じて生物学の現象・原理・法則・概念等に関する理解を深めるとともに、自己の進路実現に対応できる学力を身につける。 ・日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象に対する探究心を高め、生物学の基本的な概念や原理・法則の理解を深める。	教科書	東京書籍 生物	
講座名	理系生物演習	科目名	理系生物演習			副教材	実教出版	サイエンスビュー
単位数	2単位	区 分	自由選択				バックV	
年 次	3年次	形 態	少人数					
担当者名	竹下							

学校行事	第1学期	遠足 <第1定期考査>	<第2定期考査>	第2学期	木もれ陽祭 <第3定期考査>	<第4定期考査>	第3学期	<第5定期考査>
授業内容	オリエンテーション	遺伝子のはたらき	夏季休業期間	減数分裂、遺伝	総合問題	冬季休業期間	総合演習	
	細胞の構造とはたらき	遺伝子発現の調節		生物の発生、発生のしくみ				
	酵素のはたらき	バイオテクノロジー		動物の反応、動物の行動				
	代謝(同化・異化)			植物の環境応答				
				生態系、相互作用、物質循環				
				進化・系統				
定期考査までの授業数								

実力テスト 実技テスト 課題テスト				



評価の観点 評価方法	定期考査(年4回)を行い、学習内容の理解度や科学的に思考・判断し適切に表現する力がどの程度身についたかを評価する。
---------------	---

日常の 学習方法	・日常生活と関連付けて生命現象を理解する習慣を身につける。 ・事前に指定された範囲の学習を行い、授業開始時の小テストに備える。(予習) ・授業に参加し、自分の考え方やその根拠を他者に伝える。また、疑問点を共有し、その場で解決することを目指す。(授業) ・授業で扱った内容について復習・整理する。理解できないものは他者と協力して解決する。(復習)
-------------	---

大学受験や 発展的な内容との関連	・問題演習を通じて、生物学に関する理解を深めるとともに、自己の進路実現に対応できる学力を身につける。 ・資料集を活用して、より細かい知識の習得と学習内容の整理を行う。また、実験のページをよく読み、実験考察問題に対応するための基礎力を身につける。 ・生物学に関する最新の話題や研究内容に関心を持ち、最先端の生物学と日常生活・現代社会との関連について理解を深める。
---------------------	--

令和5年度(2023年度)授業計画				目 標	1学年で学習した生物基礎の知識をさらに深め、生物学的に探求する能力と態度を身に付ける。 基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を習得する。 大学入試に対応した、問題探求・解決の能力を身に付ける。	教科書	新編生物基礎（東京書籍）
講座名	選択生物基礎	科目名	生物基礎			副教材	チェック&演習 生物基礎（数研出版） バックV(駿台文庫)
単位数	2単位	区 分	自由選択				
年 次	3年次	形 態	選択				
担当者名	市石						

学校行事	第1学期	遠足	<第1定期考査>	<第2定期考査>	第2学期	木もれ陽祭	<第3定期考査>	<第4定期考査>	第3学期	<第5定期考査>
授業内容	生物の特徴			体内環境の調節と免疫	夏季休業期間		[演習] 問題集バック5その1	[演習] センター対策演習その1	冬季休業期間	発展演習
	遺伝子とそのはたらき			植生の多様性と分布	総合演習		[演習] 問題集バック5その2	[演習] センター対策演習その2	総合演習	
	体内環境の恒常性			生態系とその保全			[演習] 問題集バック5その3	[演習] センター対策演習その3		
	第一定期考査			第二定期考査			[演習] 問題集バック5その4	[演習] センター対策演習その4		
							[演習] 問題集バック5その5	[演習] センター対策演習その5		
						第三定期考査		第四定期考査		

実力テスト 実技テスト 課題テスト										
	随時									

評価の観点 評価方法	年4回の定期テストを行い、講義や問題演習などを通して、生物学的な思考力、判断力が更に深まったかどうか評価する。定期考査、授業態度等により評価する。
---------------	---

日常の 学習方法	①授業中 しっかり自身の考えを持って生物学に臨む。身の回りの現象や自分自身の体について、自分の言葉で説明できるようにする。常に疑問を絞り出し、授業中は頭をフル回転させること。 ②家庭学習 授業のあったその日に復習することを勧める。問題集に答えを写しながら（生物の勉強は答えを見ながらでも良い）、登場した生物用語を資料集や教科書で調べ、補足知識をメモすること。このような学習をせずに問題集だけ解き続けても、7割以上点数が伸びない。しっかり生物用語の補足知識を学び、センター試験レベルの問題なら満点を取れるような学習をこなさい。
-------------	---

大学受験や 発展的な内容との 関連	大学入試センター試験に対応した、問題演習を適宜行い、応用力を高めて行く。
-------------------------	--------------------------------------